

**教材例****【教材名】 文のまちがいさがし**

さとうは からい。	いしは みずに しずむ。	ふゆは ひが ながい。
かみで はさみを きる。	まどで そうきんを ふく。	かこの なかで とりが ないている。
かに さされると あまい。	こおりに さわると あたたかい。	はるに なると、 さくらが さく。

**【指導目標】**

- 1 短文をスムーズに読む（聴く）ことができるようになる。
- 2 短文の意味を正確に理解できるようになる。
- 3 短文の内容的な誤りを指摘することで、ことばを分析的に思考したり、人の話を注意深く聞く（読む）力が育つ。

**【やり方】**

箱から取り出したカードを読み（読んであげて）、内容的な誤りの有無や、誤った内容、修正候補について説明できたらカードゲット。（子どもに応じて難易度を変える）

**【適用できない例】**

「まどをぞうきんでふく」の「で」の意味がまだわかっていないなど、不注意の問題というより、文法的な理解がまだの場合。

**【コメント】**

人の話を注意深く聞けないということの背景には様々あります。言語理解の問題、注意の問題、関係性の理解の問題などなど。

これは、人の話を注意深くために、明らかに誤った内容を指摘するというゲーム的要素を取り入れた教材です。もともとは失語症のHP「岡山県言語聴覚士会」から借用し、子ども用にアレンジしたものです。

<http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/commhw/okayamast/cms/>

